

平成30年10月15日開催

## 厚生常任委員会資料【所管事務調査】

上越市地域福祉計画について

- ・地域福祉計画策定に当たっての基本的な考え方 . . . . . 1～3
- ・上越市地域福祉計画策定委員会におけるこれまでの検討状況等 . . . . . 4

# 地域福祉計画策定に当たっての基本的な考え方

## 1 地域福祉計画とは

健康増進計画や障害者福祉計画などの市が策定した健康福祉に関連する各種計画を包含し、**福祉関係施策を総合的に推進するための理念計画**（行政計画）

## 2 経過

- 平成 19 年 3 月に上越市地域福祉計画（対象期間：平成 19 年度から 23 年度まで）を策定したが、健康増進計画や障害者福祉計画などの個別計画に事業の推進を委ねてきたことから、計画の改定がなされないまま、現在に至っている。

## 3 策定の必要性

- ① 社会福祉法の改正により、**平成 30 年度から地域福祉計画の策定が努力義務化された。**  
（参考）社会福祉法第 107 条（抄）  
（市町村地域福祉計画）  
第七十条 市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定するよう努めるものとする。
- ② 国では、「地域共生社会」の実現、包括支援体制の構築を提唱しており、地域住民や各種団体が積極的に関わり合い、地域の支え合い体制の強化が求められている。

国は、「**地域共生社会**」の実現、**包括支援体制の構築**を提唱  
地域共生社会 … 制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

- ③ 健康福祉分野に関連する各種施策（計画）を総合的に推進するため、分野横断的に検討する必要がある。

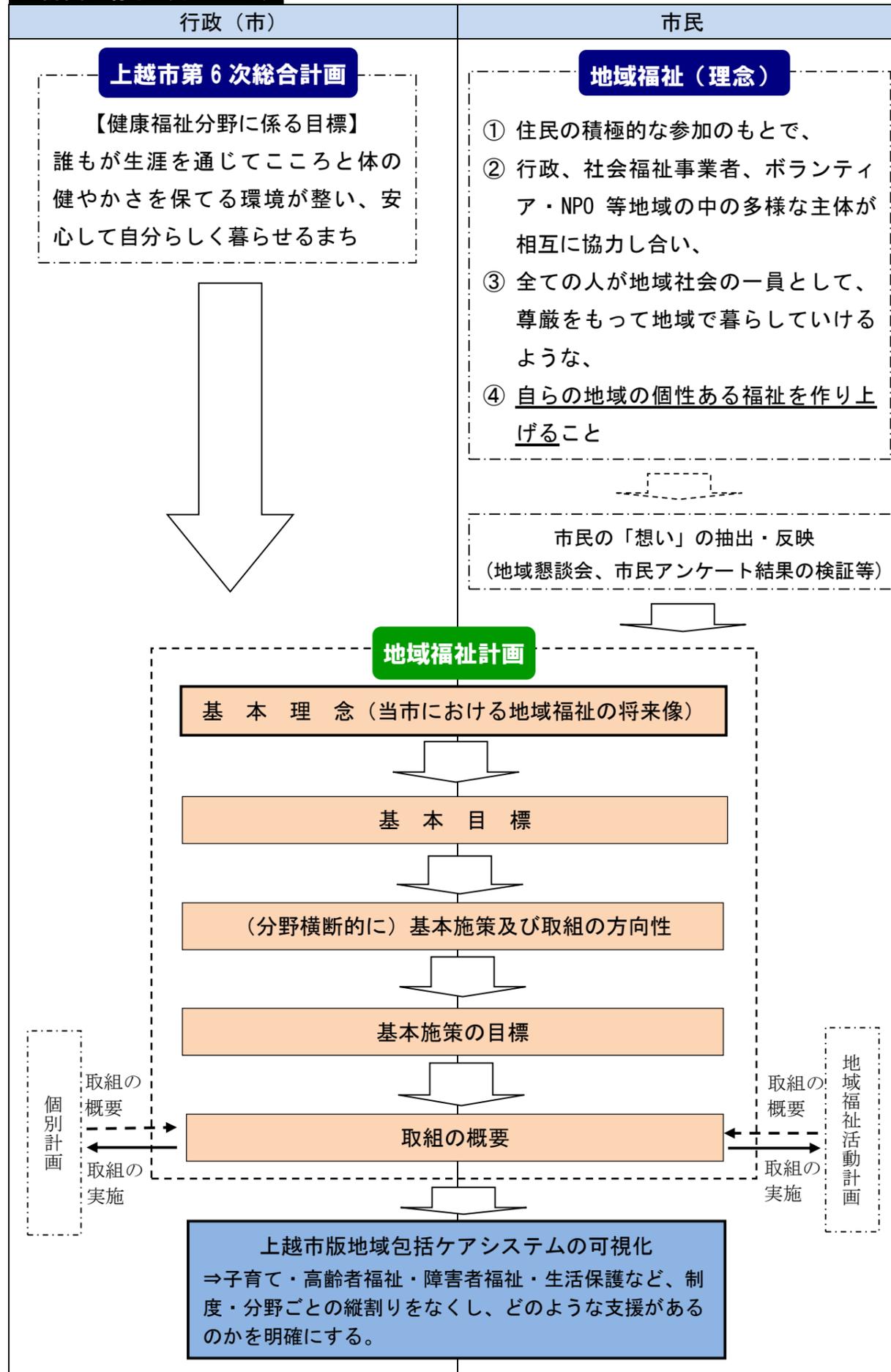
## 4 計画の特徴

- (1) **地域共生社会の実現に向けた地域福祉を総合的に推進するための理念計画**
  - ・ これまでに市で策定した健康増進計画や障害者福祉計画などの健康福祉に関連する各種計画を包含した計画
- (2) **住民参加による地域福祉の実現**
  - ・ 地域福祉推進への主体的参加の促進
  - ・ 住民が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境の整備  
⇒ 公募委員や町内会、民生委員などの地域住民を含む策定委員会の設置
- (3) **社会福祉協議会等との連携**
  - ・ 地域福祉の実現には、福祉関係の各種団体、特に社会福祉協議会との連携・協力が不可欠  
⇒ 社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画との連携  
※ 社会福祉協議会では、本計画と整合を図りながら平成 30 年度に地域福祉活動計画を策定

## 5 計画の期間

- ・ 健康福祉に係る各種計画の上位計画に位置付けられている地域福祉計画は、上越市総合計画と整合を図る必要があることから、上越市総合計画の見直しの周期に合わせ、**4年（平成 31 年度～平成 34 年度）**とする。

## 6 計画の骨子（イメージ）

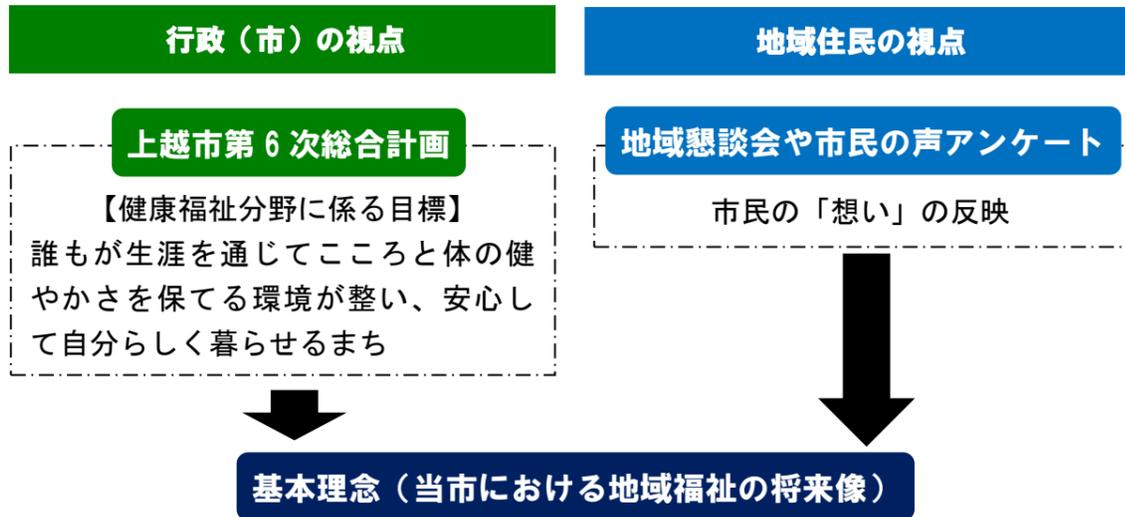


# 地域福祉計画策定に当たっての基本的な考え方

## 7 基本理念の概要

- 上越市第6次総合計画の健康福祉分野においては、「誰もが生涯を通じてところと体の健やかさを保てる環境が整い、安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を目標として掲げ、取組を進めている。
- しかしながら、人口減少や少子高齢化、家族の在り方の変化などに伴い、複雑で多様な生活課題を抱える方が増えてきており、悩みや問題を抱えたまま個人や家庭が社会から孤立してしまうことが懸念される。
- こうした社会からの孤立を防ぎ、誰もが自分の居場所を持てるよう社会全体で支えていくためには、地域住民等と連携しながら共に取り組んでいくことがますます重要になってくる。
- こうした状況を踏まえ、基本理念の作成に当たっては、上越市第6次総合計画の健康福祉分野における目標と整合を図り、さらに発展させつつ、地域住民の想いを反映させることとする。

### 【基本理念の検討イメージ】



## 8 基本理念の検討

### 検討ステップ1

第6次総合計画の健康福祉分野における目標「誰もが生涯を通じてところと体の健やかさを保てる環境が整い、安心して自分らしく暮らせるまちづくり」の発展

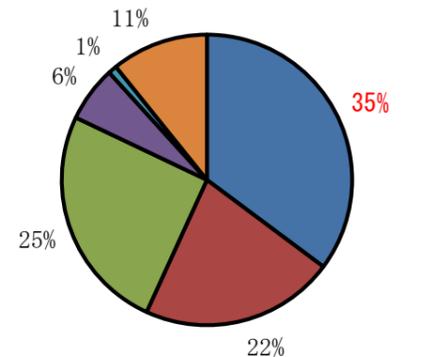
健康福祉分野における目標	考え方	発展した状態
誰もが生涯を通じてところと体の健やかさを保てる環境が整い、	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで地域包括支援センターの再配置等による相談体制の強化や個別訪問等による保健指導などを実施し、体とところのすこやかさを保てる環境を整えてきた。</li> <li>基本理念では、現状をさらに発展させ、一人ひとりがすこやかにいきいきと暮らしている状態を目指す。</li> <li>さらに、今後社会全体で継続的に支え合っていくためには、自分自身のところと体がすこやかであること（＝一人ひとりがすこやかにいきいきと暮らしている状態）を前提としつつ、このことをさらに発展させ、自分のことだけでなく、他人のために果たす「出番」がある状態を目指すべきと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの出番がある状態</li> </ul>
安心して自分らしく暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少や少子高齢化、家族の在り方の変化などに伴い、複雑で多様な生活課題を抱える方が増えてきていることを踏まえ、自分らしく暮らしつつ、さらに社会から孤立する人がいない誰もが「居場所」のある地域を目指す。</li> <li>「安心して暮らせるまち」は普遍的な考えである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが居場所のある状態</li> <li>安心して自分らしく暮らせる地域社会の実現</li> </ul>

## 検討ステップ2 地域懇談会や市民の声アンケートにおける市民の「想い」の反映

区分	意見等	思い
地域懇談会 ※社会福祉協議会主催 平成30年6月26日から9月下旬頃までの間に7地区でそれぞれ2回実施 【1回目】 「こんな地域にしたい」等地域の想いの抽出 【2回目】 地域における具体的な取組について議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域懇談会において、「こんな地域にしたい（なったらいい）」というテーマでグループワークを行った。</li> <li>事務局で意見を整理したところ、「支え合い・助け合い」に関する意見が29件/122件（約23.8%）と最も多く、近所同士で助け合っている状態が理想であることが分かった。</li> <li>次に多かった意見は、「世代間交流」の23件/122件（約18.9%）であり、地域の中で、子どもから高齢者まで、コミュニケーションがしっかりとれている状態も重要視されていることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったときに近所同士で助け合える</li> <li>地域の中でコミュニケーションがしっかりとれている</li> </ul>
市民の声アンケート （平成30年1月実施）  対象者： 市内に在住する満18歳以上の男女5,000人  回答者：2,168人 （有効回答率：43.36%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「近所付き合いで、「理想」とする付き合いはどの程度ですか。」という問いに対し、最も多かった回答が「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」の約35%であった。</li> <li>一方、「近所付き合いをどの程度していますか。」という問いに対し、「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」と回答した人は、約16%であり、現実と理想にはギャップがある。</li> <li>また、「近所で困っている人がいる場合に、『頼まれたら』できることはありますか（声かけや安否確認）。」という問いに対し、「かなりできる」、「ときどきできる」と回答した人は、あわせて約76%であり、このことから住民同士の見守りの意識は高いと考えられるが、実際に自発的な助け合いが期待できる関係（＝②の「近所付き合いをどの程度していますか。」という問いにおいて、「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」、「お互いに訪問し合う程度の人がある」を足した数値）を構築している人は、約32%にとどまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったときに近所同士で助け合える</li> </ul>

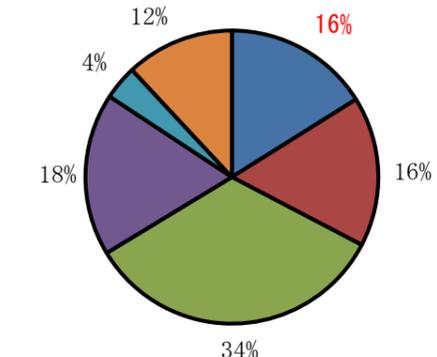
### 【市民の声アンケート結果（抜粋）】

①近所付き合いで、「理想」とする付き合いはどの程度ですか。



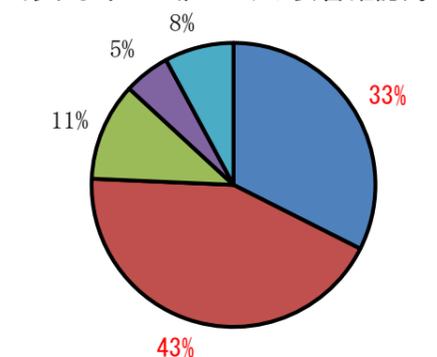
- 何か困ったときに助け合う親しい人がいる
- お互いに訪問し合う程度の人がある
- 立ち話をする程度の人がある
- あいさつをする程度の人しかいない
- ほとんど付き合いはない
- 無回答

②近所付き合いをどの程度していますか。



- 何か困ったときに助け合う親しい人がいる
- お互いに訪問し合う程度の人がある
- 立ち話をする程度の人がある
- あいさつをする程度の人しかいない
- ほとんど付き合いはない
- 無回答

③ご近所で困っている人がいる場合に、「頼まれたら」できることはありますか（声かけや安否確認）。



- かなりできる
- ときどきできる
- あまりできない
- できない
- 無回答

※ 上記円グラフの作成に当たっては、小数点以下の数値を四捨五入するなどの処理を行っている。

## 9 基本理念

誰もが居場所と出番を持って、共に支え合いながら、安心してすこやかに自分らしく暮らせる地域社会の実現

**10 基本目標の検討**

○ 基本目標は、基本理念を実現するため、基本理念の構成要素を抽出・整理した上で、より具体化したものを設定する。

**検討ステップ1 基本理念の構成要素の抽出・整理**

誰もが居場所と出番を持って、共に支え合いながら、安心してすこやかに自分らしく暮らせる地域社会の実現

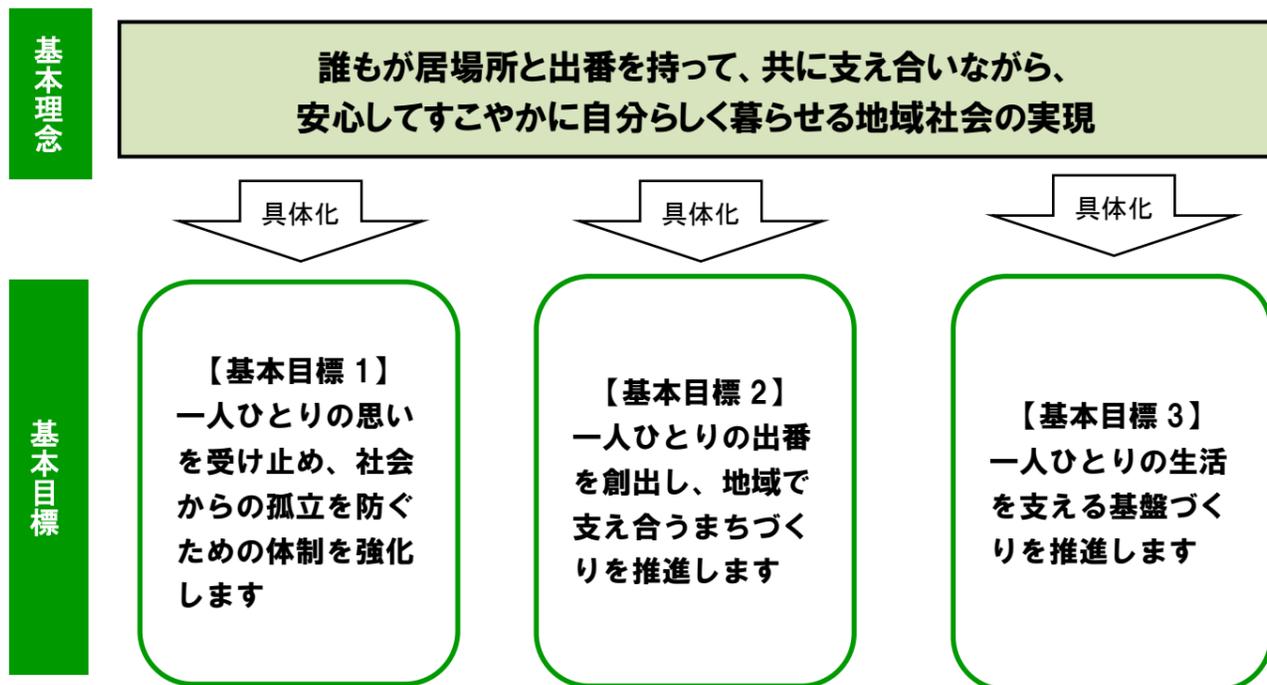
- 上記基本理念においては、皆で支え合っていく地域社会を実現していくことが必要になるが、そのためには、まず個人の居場所が確保されていることが必要と考える。…①
- 地域において個人の居場所が確保され、さらに住民一人ひとりが地域に思いや関心を持つことによって、初めて他人にも手を差し伸べることができるようになる（＝出番を持つ、共に支え合う）と考える。…②
- こうした支え合い体制の整った地域において、福祉サービスや施設をさらに充実させることで、自助、互助、共助、公助がそれぞれ確実に機能し、安心してすこやかに自分らしく暮らせる地域社会の実現を目指す。…③



**検討ステップ2 基本目標の設定**

- ① 一人ひとりが居場所を持つ  
⇒ **一人ひとりの思いを受け止め、社会からの孤立を防ぐための体制を強化します**
- ② 一人ひとりが出番を持って、共に支え合う  
⇒ **一人ひとりの出番を創出し、地域で支え合うまちづくりを推進します**
- ③ 安心してすこやかに自分らしく暮らせる地域社会の実現  
⇒ **一人ひとりの生活を支える基盤づくりを推進します**

**【基本理念と基本目標の関係性イメージ】**



**11 基本目標及び考え方**

**【基本目標 1】**

**一人ひとりの思いを受け止め、社会からの孤立を防ぐための体制を強化します**

人口減少や少子高齢化、家族の在り方の変化などに伴い、複雑で多様な生活課題を抱える方が増えてきており、悩みや問題を抱えたまま個人や家庭が社会から孤立してしまうことが懸念されます。

自ら声をあげられない人や困りごとを抱えている人の悩みに気づき、支援につなげていくための体制づくりや取組を充実させ、社会から孤立することがなく安心して暮らせる地域を目指すほか、誰もが身近な地域で、すこやかに自分らしく暮らせるよう、地域とのつながりを築くことができるイベントへの参加や健康づくりに向けた自発的な取組などを促進します。

**【基本目標 2】**

**一人ひとりの出番を創出し、地域で支え合うまちづくりを推進します**

地域においては、見守り・安否確認や買い物等といった新たな日常生活の困りごと等が発生してきています。これらの困りごと等に気づき、解決につなげていくためには、日頃からご近所付き合いを行っている地域の皆さんとの連携が特に必要になってきます。

また、社会全体で支え合う取組を安定的に継続していくためには、住民一人ひとりが自らの地域に思いや関心を持ちながら、主体的に活動することが重要となってきます。例えば、元気な高齢者の皆さんから、支援が必要な人の居場所づくりの担い手として活動していただくなど、地域における一人ひとりの出番を創出し、日常生活を送る中で、住民同士が支え合う関係を築けるようなまちづくりを目指します。

**【基本目標 3】**

**一人ひとりの生活を支える基盤づくりを推進します**

個人の状況に応じた効果的かつ温かみのある福祉サービスを展開していくことにより、住民一人ひとりが安心してすこやかに暮らしていくための基盤を整えていきます。

また、災害時等の緊急時においても、安心した生活が送れるよう、拠点整備や受入れ体制づくりを推進していきます。

**12 今後の主なスケジュール**

時期	区分	内容
10月	第3回策定委員会	計画素案について
11月中旬～	第4回策定委員会	計画案について
12月	厚生常任委員会所管事務調査	計画案について
1月～2月	パブリックコメントの実施	
3月中旬～下旬	第5回策定委員会	計画最終案について

# 上越市地域福祉計画策定委員会におけるこれまでの検討状況等

## 1 これまでの検討状況

年 月 日	内 容
平成 30 年 6 月 26 日	<p>○第 1 回上越市地域福祉計画策定委員会</p> <p>【議事】</p> <p>(1) 委員会の運営等について</p> <p>(2) 地域福祉計画の基本的な考え方について</p> <p>(3) 意見交換</p>
平成 30 年 8 月 9 日	<p>○第 2 回上越市地域福祉計画策定委員会</p> <p>【議事】</p> <p>(1) 地域福祉計画における基本理念及び基本目標について</p> <p>(2) 意見交換</p>

## 2 上越市地域福祉計画策定委員名簿

(委員区分・五十音順、敬称略)

	区分	氏名	所属	備考
1	学識経験者	青木 茂	新潟医療福祉大学 社会福祉学部 准教授	委員長
2		佐藤 将朗	上越教育大学 准教授	
3	公募による市民	小杉 敏勝	市民	
4		山川 美香	市民	
5	福祉団体・福祉 事業関係者	井部 佐恵子	上越市民生委員児童委員協議会連合会 柿崎地区会長	副委員長
6		西澤 恵	上越基幹相談支援センター 相談支援専門員	
7		宮本 慶之	社会福祉法人 上越市社会福祉協議会 地域福祉課長	
8		横尾 弘史	上越あたご地域包括支援センター板倉	
9	医療関係者	五十嵐 靖雄	いがらし整形外科	
10		片海 ひな子	三和ファミリー歯科医院	
11	その他諸団体の 関係者	仲田 紀夫	上越市町内会長連絡協議会	
12		藤枝 セツ	上越人権擁護委員協議会	
13	教育関係者	廣川 由紀子	小中学校校長会 大島小学校長	
14	関係行政機関の 職員	飯田 恭子	上越公共職業安定所 統括職業指導官	
15		中村 哲士	上越地域振興局 健康福祉環境部 副部長	